

月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

511号 平成 31 (2019) 年 2 月

平成 30 年の赤潮発生状況を振り返って

赤潮はプランクトンの大増殖によって海水が着色する現象で、発生の規模や種類によってはノリの色落ちや魚介類の大量へい死等を起こします。

当グループでは、月 2 回以上の定期的な観測や、漁業関係者等からの情報収集により赤潮発生状況を取りまとめ、ウェブページ (<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/0000007549.html>) 等で情報発信しています。平成 30 年の伊勢・三河湾における赤潮発生件数は 30 件（過去 10 年平均：30 件）、赤潮発生延日数は 221 日（同平均：178 日）で、件数は平年並、延日数はやや多くなりました。

赤潮発生件数の経年変化は、年ごとの増減はあるものの横ばいの傾向にあります（図 1）。

赤潮は 5～10 月に発生しやすく、30 年は 6 月及び 8 月に多く発生していました（図 2）。プランクトンの種類では珪藻類が多く（図 3）、例年同様の傾向となりました。28 年及び 29 年に漁業被害をもたらしたカレンア・ミキモイによる赤潮が 30 年も 8 月に発生しましたが、漁業被害には至りませんでした。

今後も漁業被害軽減のため、速やかな情報発信や赤潮予報の精度向上等に努めていきます。

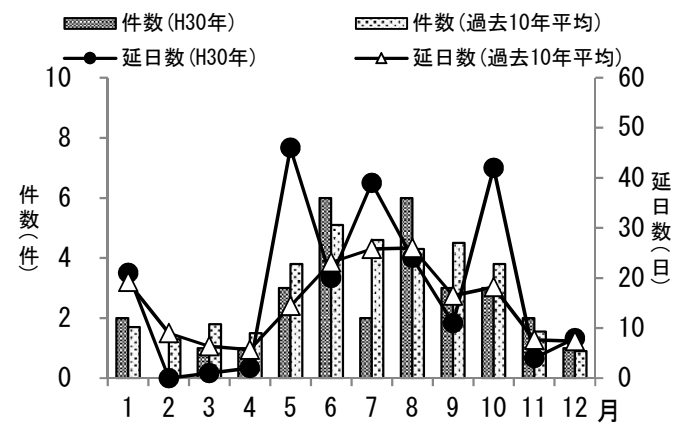


図 2 平成 30 年の伊勢湾・三河湾の月別赤潮発生状況

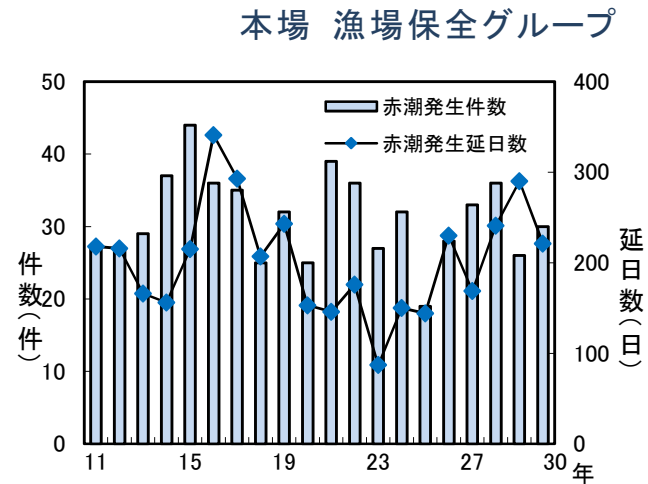


図 1 伊勢湾・三河湾の赤潮発生状況推移

種名	種類	延日数
1 <i>Skeletonema</i> spp.	珪藻類	157
2 <i>Chaetoceros</i> spp.	珪藻類	49
3 <i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	珪藻類	32
4 小型鞭毛藻類	鞭毛藻類	25
5 <i>Heterosigma akashiwo</i>	鞭毛藻類	15
6 <i>Leptocylindrus danicus</i>	珪藻類	13
7 <i>Gymnodinium</i> spp.	鞭毛藻類	10

図 3 平成 30 年のプランクトン種別の赤潮発生延日数

ノリの安定生産のため、新たな種苗開発を進めています

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

ノリは水温等の海況により成長が変化するため、ノリ養殖の収穫量を安定させるには、早生と晩生を混ぜた混合種苗を用いて養殖することが推奨されます。当グループでは早生の「あゆち黒誉れ」を開発し、漁業者に提供するとともに、晩生の種苗の開発、試験も行っています。

今年度は、新たに開発した晩生の「種苗 A」と、混合種苗に含めることにより秋芽網生産期終盤（年末）の収穫量増加が確認されている「種苗 B」との収穫性の検証試験を行いました。その結果、「種苗 A」は「種苗 B」より多い収穫量となりました。このことから、「種苗 A」は混合種苗に含めることにより、収穫量のさらなる増加が期待されます。試験養殖は冷蔵網生産期も行い、低水温期の収穫量についても確認します。

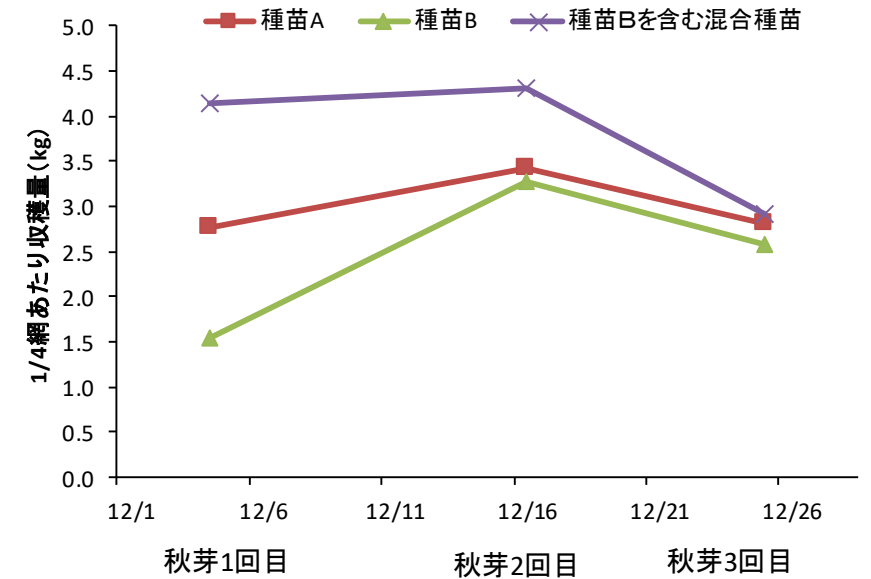


図 4 試験養殖における収穫量の推移

水産試験場研究発表会にご参加ください

本場 企画普及グループ

水産試験場では、漁業関係者や県民の皆様に向けて日頃の研究成果を発表するため、次のとおり研究発表会を開催します。多数の方々のご参加をお待ちしております。

- 1 日 時：平成 31 年 2 月 28 日（木）午後 1 時から 5 時まで
- 2 場 所：愛知県水産試験場 2 階研修室（蒲郡市三谷町若宮 97）
- 3 記念講演：
 - 自業自得の失敗から皆さんにお伝えしたいこと（副場長：服部克也）
- 4 発表内容：
 - （1）広域流域下水道の冬季リン濃度管理運転が周辺海域の水質に与えた影響
 - （2）六条潟におけるアサリ減耗と漁場環境
 - （3）伊勢湾における夏季の流動構造と貧酸素水塊及びクロロフィル a 濃度の分布
 - （4）矢作川河口におけるヨシエビ稚エビの分布
 - （5）ウナギ遡上行動試験
 - （6）新たなアユ人工種苗「海産系高成長選抜 F2」の特性評価
- 5 案内ウェブページ
 - 右記からご覧下さい <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/h310228.html>

